

### Ⅲ. 死亡者数の推計とピーク期の火葬状況

#### 1. 死亡者数の推計結果

令和 2 年 3 月に国立社会保障・人口問題研究所（以下、これらを「社人研」という）から、平成 27 年の国勢調査を基に、平成 27 年 10 月 1 日から令和 27 年 10 月 1 日までの 30 年間（5 年ごと）について、男女年齢（5 歳）階級別の都道府県別・市区町村別に将来人口を推計した結果が、地域別将来推計人口として出されている。

また「人口問題研究」（Journal of Population Problems 第 76 巻第 1 号 令和 2 年 3 月 25 日発行、編集者・発行者 国立社会保障・人口問題研究所）の特集 I 地域別将来人口推計の中で、日本の地域別将来推計人口からみた将来の死亡数（菅桂太・小池司朗・鎌田健司・石井太・山内昌和 著）として、生残率仮定値を用いて、「地域推計」と整合的な将来の死亡数の推計を行っている。

その死亡者数の推計値を 5 年間について年間の平均としたものを表 7 と図 1 に示す。

※「社人研」では、60-64 歳→65-69 歳以上の生残率については、同じ都道府県に属する市区町村間においても生残率の差が大きく、将来人口推計に対して生残率がおよぼす影響も大きくなるため、都道府県とそれに含まれる市区町村の較差を利用して生残率の仮定値を設定した。

表 7 死亡者数の推計値の 5 年間の年平均

（単位：人）

市 町 等	死亡者数推計（年平均）					
	平成 27 年～ 令和 2 年	令和 2 年～ 令和 7 年	令和 7 年～ 令和 12 年	令和 12 年～ 令和 17 年	令和 17 年～ 令和 22 年	令和 22 年～ 令和 27 年
太 田 市	2,186	2,405	2,632	2,816	2,888	2,865
千代田町	129	133	139	148	155	152
大 泉 町	336	377	421	454	468	471
邑 楽 町	289	320	355	387	396	382
大泉町外二町計	754	830	915	989	1,019	1,005
一市三町合計	2,940	3,235	3,547	3,805	3,907	3,870

社人研：市区町村別参考表 市区町村別死亡数と指数より（年数期間は 10 月～9 月）

死亡者数の推計結果をみると、大泉町は令和 22 年 10 月から令和 27 年 9 月がピークとなるものの、太田市、千代田町、邑楽町のピークは令和 17 年 10 月から令和 22 年 9 月の期間となり、大泉町外二町の合計及び一市三町のピークは令和 17 年 10 月から令和 22 年 9 月の期間となる。

太田市	2,888 人（ 73.9%）
千代田町	155 人（ 4.0%）
大泉町	468 人（ 12.0%）
邑楽町	396 人（ 10.1%）
大泉町外二町計	1,019 人（ 26.1%）
一市三町合計	3,907 人（100.0%）

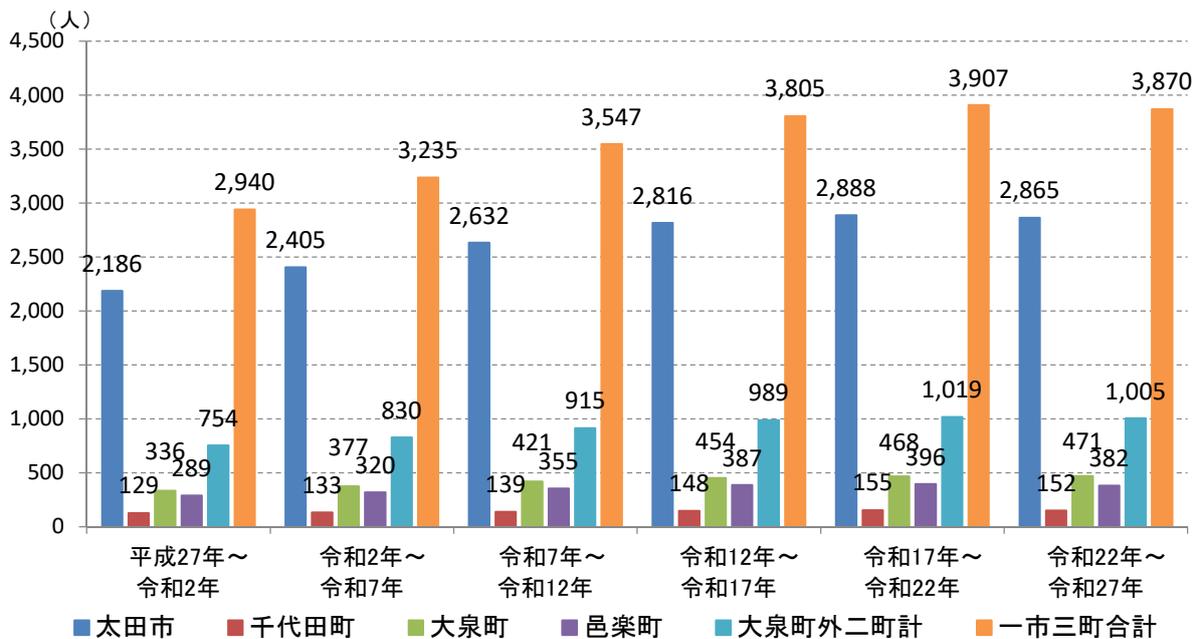


図 1 社人研推計の死亡者数の推計結果 (5年間の年平均)

## 2. 死亡者数の増加率

令和元年の死亡者数に対する死亡者数の推計値をもとにした、死亡者数の増加率を表 8 に示す。

表 8 令和元年に対する死亡者数の増加率

(単位：上段は人、下段は倍)

市町等	令和元年死亡者数	推計結果				
		令和2年～令和7年	令和7年～令和12年	令和12年～令和17年	令和17年～令和22年	令和22年～令和27年
太田市	2,234	2,405	2,632	2,816	2,888	2,865
	1	1.08	1.18	1.26	1.29	1.28
千代田町	129	133	139	148	155	152
	1	1.03	1.08	1.15	1.20	1.18
大泉町	346	377	421	454	468	471
	1	1.09	1.22	1.31	1.35	1.36
邑楽町	300	320	355	387	396	382
	1	1.07	1.18	1.29	1.32	1.27
大泉町外二町計	775	830	915	989	1,019	1,005
	1	1.07	1.18	1.28	1.31	1.30
合計	3,009	3,235	3,547	3,805	3,907	3,870
	1	1.07	1.18	1.26	1.30	1.29

令和元年の死亡者数は住民基本台帳より

太田市はピークとなる令和 17 年 10 月から令和 22 年 9 月の期間では令和元年の 1.29 倍となり、大泉町外二町の合計では 1.31 倍となる。

一市三町の合計では 1.30 倍となると推計される。

### 3. ピーク期の火葬状況の推計

太田市斎場と大泉町外二町斎場のピーク期（令和 17 年 10 月から令和 22 年 9 月）に想定される日別の火葬状況のイメージをもとに、一市三町全体のピーク期に想定される日別の火葬状況のイメージを表 9 に整理した。

表 9 一市三町のピーク期の日別の火葬イメージ

(単位：件)

日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	12	13	15	12	17	11	9	0	17	0	0	0	
2	14	8	0	12	0	15	15	18	10	0	14	14	
3	16	11	13	8	14	13	13	11	13	0	15	16	
4	15	0	12	10	16	10	0	13	10	17	15	17	
5	13	10	14	0	15	0	14	17	12	16	14	12	
6	10	11	0	18	13	13	14	13	0	15	16	14	
7	7	13	18	7	15	15	7	0	10	16	0	0	
8	5	14	11	11	0	5	11	18	9	20	10	12	
9	13	0	8	11	18	13	13	20	16	0	11	16	
10	0	14	15	15	16	13	0	12	12	21	11	15	
11	16	7	7	0	14	0	13	20	18	16	12	15	
12	17	9	0	8	14	17	2	16	0	7	8	13	
13	14	15	10	4	5	13	4	0	16	11	0	0	
14	4	18	9	12	0	14	8	18	14	19	17	17	
15	14	0	5	15	4	3	11	18	11	0	15	14	
16	0	15	8	7	5	14	0	11	16	12	10	11	
17	15	11	10	0	16	0	12	10	14	19	20	8	
18	12	12	0	10	11	14	6	8	0	13	18	17	
19	5	6	15	10	17	8	14	0	21	7	0	0	
20	7	17	12	7	0	10	9	11	20	17	14	15	
21	4	0	13	10	16	14	14	11	17	0	17	11	
22	0	15	16	14	12	9	0	11	12	17	10	6	
23	13	11	11	0	17	0	15	8	19	20	10	13	
24	14	10	0	12	6	16	11	5	0	16	0	9	
25	15	10	11	10	4	12	11	0	18	17	15	14	
26	14	10	15	8	0	10	9	17	21	0	14	9	
27	12	0	14	4	13	11	3	19	21	18	14	11	
28	0	18	14	8	10	12	13	15	0	18	13	11	
29	16	13	9	0	17	13	15	18	18	15	20	0	
30	15	14	0	14	0	16	17	0	18	17		12	
31		17		14	16		17		16	14		12	
計	312	322	285	271	321	314	300	338	399	378	333	334	3,907

【凡例】  休日  友引

ピーク期に想定される月別の火葬状況を表 10 に示す。

稼働日の年間の 1 日当たりの平均火葬数は 12.9 件/日となり、繁忙期の 1 月の平均火葬数は 15.8 件/日と想定される。

現状と同じ火葬状況であれば、一市三町全体では 1 日 21 件の受け入れに対応出来れば、ピーク期にも対応できることになる。

表 10 一市三町のピーク期に想定される月別の火葬状況

(単位：日)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
休業日	4	5	6	5	6	4	4	6	5	7	5	5	62
0件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2件	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
3件	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
4件	2	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	7
5件	2	0	1	0	2	1	0	1	0	0	0	0	7
6件	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4
7件	2	1	1	3	0	0	1	0	0	2	0	0	10
8件	0	1	2	4	0	1	1	2	0	0	1	1	13
9件	0	1	2	0	0	1	3	0	1	0	0	2	10
10件	1	4	2	5	1	3	0	1	3	0	4	0	24
11件	0	4	3	2	1	2	4	5	1	1	2	4	29
12件	3	1	2	4	1	2	1	1	3	1	1	4	24
13件	3	3	2	0	2	6	4	2	1	1	1	2	27
14件	5	3	3	3	3	4	4	0	2	1	5	4	37
15件	4	3	4	2	2	2	3	1	0	2	4	3	30
16件	3	0	1	0	5	2	0	1	4	4	1	2	23
17件	1	2	0	0	4	1	2	2	2	5	2	3	24
18件	0	2	1	1	1	0	0	5	4	2	1	0	17
19件	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4
20件	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	2	0	7
21件	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
稼働日平均火葬数(件/日)	12.0	12.4	11.9	10.4	12.8	12.1	11.1	14.1	15.3	15.8	13.9	12.8	12.9

## 4. 必要火葬炉数

### 1) ピーク期に想定される火葬数

現在の火葬状況をもとに算出したピーク期（令和 17 年 10 月から令和 22 年 9 月）に想定される火葬数は次のとおりとなる。

1 日最大 21 件 4 日

20 件 7 日

稼働日平均火葬数 最大 1 月 15.8 件/日

最小 7 月 10.4 件/日

平均 12.9 件/日

現在と同様の受入体制であれば、1 日当たり 21 件の火葬能力が必要となる。

### 2) 必要火葬炉数

火葬炉の回転数を上げれば、必要火葬炉数は減少する。

太田市斎場単独、大泉町外二町斎場単独と、一市三町共同の場合のそれぞれ、ケース別の 1 日当たりの必要火葬能力に対する火葬炉の回転数と必要火葬炉数について表 11 に示す。

表 11 1日当たりの必要火葬能力に対する火葬炉の回転数と必要火葬炉数

		太田市	大泉町外二町	合計	一市三町
1日当たりの必要火葬能力		13件	8件	21件	21件
必要火葬炉数	2.0回転/基	7基	4基	11基	11基
	2.5回転/基	6基	4基	10基	9基
	3.0回転/基	5基	3基	8基	7基

死亡者数のピーク期間の令和17年10月から令和22年9月の必要火葬炉数は、2.0回転/基とした場合、それぞれ単独で整備した場合の合計11基に対して、一市三町共同の場合も11基となる。

2.5回転/基とした場合、合計10基に対して一市三町共同の場合は9基となり、必要火葬炉数は1基減少する。

3.0回転/基とした場合、合計8基に対して一市三町共同の場合は7基となり、必要火葬炉数は1基減少する。

#### 一市三町での必要火葬炉数

現在の火葬受付で問題ないため火葬炉は1日当たり2.5回転/基を採用すると、必要炉数は9基となる。

2.0回転/基の場合 11基

**2.5回転/基の場合 9基**

3.0回転/基の場合 7基